

救えないプライド

作詞作曲 清水信吉

編 曲 maru

「7章 テーマ曲」

人の役に立ちたいのに
嫌われることが怖すぎて
今日もまた言葉を飲み込んでしまった

こんな生き方したい訳じゃないのに
どうして？
どうして？
手放せないことがある

ちっぽけなプライドに
何を恐れてるの
頑なに握りしめた
その先の未来には
誰も救えないのに

人とつながりあいたいのに
離れられるのが怖すぎて
今日もまた本音は言わずに笑った

こんな繋がりならばいらぬのに

どうして どうして

手放せないことばかり

ちっぽけなプライドで
誰を守れてるの
いい人でい続けても
その先の未来には
誰も救えないのに

嫌われても
人の役にたてる人でいたいよ
ちっぽけなプライドで
どうせ苦しむのなら
幸せに続く今の
痛みを選び続けたい
そんなプライドを
守りたい

4. 救えないプライド

—執着を手放す勇気—

「これを言ったら嫌われるかもしれない」
「伝えたら関係が壊れるかもしれない」
そんな思いから、本音を言えずに飲み込んでしまった経験はありませんか？
僕もかつて、尊敬する人や憧れの存在に対して、違和感を抱きながらも言葉を飲み込んできました。
けれど、あるとき立て続けに“この人は本当に正しいのか？”と疑問に感じる出来事があり、勇気を振り絞って、ついに本音を伝えることができた。
その瞬間、魂がほどけるように、すごく楽になったんです。

本当に人の役に立ってる人って厳しいことを言える人だったりしませんか？
優しい言葉をかけるだけでは相手の成長や気付きにならないかもしれません。
時に嫌われる役を自らが買ってでも相手の成長を望む人が本当に愛がある人だと今は思います。

人にどう思われるかを気にして、“いい人”を演じることで守っていた“救えないプライド”。

それを手放した時、初めて“本質的な会話”ができるようになります。

これは、その時の自分への戒めと、誰かの勇気のきっかけになればと願って書いた一曲です。